令和２年度自己点検評価結果

学　　長

Ⅰ　教育活動

・改善した点等

① 学部旧教養系・教育支援系全体の令和２年３月卒業者の就職率（進学者を除く）は89.2%で、平成31年３月卒業者の86.5%から2.7ポイント上昇した。
Ｄ類の令和２年３月卒業者の教員就職率（進学者・保育士を除く）は88.9%で、平成31年３月卒業者の75.0%から13.9ポイント上昇した。

② 第３期中期計画における修士課程の学校教員養成系の教員就職率目標値60%を中間評価期間（平成28年度から令和元年度）において、60.7%(H29.3：58.3%,H30.3：59.4%,H31.3：63.9%,R2.3：61.3%)と目標値を上回った。
教職大学院の令和２年３月修了者の教員就職率は100%（ストレートマスターのみ）で、平成31年３月卒業者の92.9%から7.1ポイント上昇した。

③ 大学院連合学校教育学研究科における常勤就職率（平成8年度～現在まで）は79.0%で前年度の78.9%から0.1ポイント増加し、高い率を維持している。

・改善を要する点

① 学部の旧教育系・学校教育系の令和２年３月卒業者の教員就職率（進学者・保育士を除く）は55.7%で、平成31年3月卒業者の64.0%から8.3ポイント下降した。第3期中期計画における目標値教員就職率70%を中間評価期間（平成28年度から令和元年度）において63.0%(H29.3:68.2%,H30.3:64.2%,H31.3:64.0%,R2.3:55.7%)と、目標値を下回った。

② 教職大学院の令和３年４月の入学者は191名で、令和２年４月の入学者197名から６名減少した。
修士課程の令和３年４月の入学者は99名で、令和２年４月の入学者105名から６名減少した。

Ⅱ　研究活動

・改善した点等

① 科学研究費の令和２年度の新規採択件数は46件で、前年度40件から６件増加した。

・改善を要する点

① 科学研究費の新規採択率が、新規応募件数50件以上の研究機関別採択率上位30機関に、昨年度に続き入れなかった（平成30年度全国９位、平成29年度全国４位、平成28年度全国５位）。

Ⅲ　社会貢献活動

・改善した点等

特になし

・改善を要する点

コロナ禍による活動制限の中での対応

Ⅳ　国際交流活動

・改善した点等

特になし

・改善を要する点

コロナ禍による活動制限の中での対応

Ⅴ　大学運営

・改善した点等

特になし

・改善を要する点

① 大学教員の年齢構成に偏りがあり、30歳代の教員が少ない状況である。